3

小学校

「世界と自分を見つめ、世界市民としての自分の役割を考え、周囲に働きかけができる児童の育成」

6年　総合的な学習

京都府宇治市立平盛小学校　研究代表者　藤原 由香里先生
TEL 0774-39-9140　FAX 0774-39-9141

1．研究のねらい

「世界の誰もが豊かになるように」と願うとき、困難な環境に置かれた子ども達に対して、できることを探すことが多い。しかし、私達の住む日本、または地域社会、更に言えば、学校やクラスの中にも、心や身体に課題を抱える友達や、悲しんだり困ったりしている人々がいる。我が校の児童においても、固定された人間関係の中で、いじめや暴言・暴力といった事象が起こり、満たされた生活をしているとは言い難い。物質的には豊かだが、精神的豊かさが失われつつある日本。そんな状況において、私達が、救えるのは、また第一に救うべきなのは、自分の周りにいて、困っている人々ではないか。その人達に思いを寄せ、「自分にできることを考え、行動すること」は、世界市民としての自覚を持ち、手を取り合って共存するための第一歩である。

そこで、子どもも大人もお年寄りも共に遊び、互いを認め合えるような活動である「プロジェクト・アドベンチャー」や「インプロ」などのワークショップを子ども達に体験してもらい、「互いの存在を認め合うこと」の大切さを伝えることをねらいとした。さらに、その体験を、子ども達が中心となって、伝えていくことで、互いを大切にし合う関係を、学級、学校、そして地域へと広げていきたいと考えた。

2．活動計画

（13時間）（２学期　10月～11月）

時　間	主　な　学　習　活　動
1～2	○　ユニセフ監修のビデオ「ようこそ、ぼくらの学校へ！」を観て、アルゼンチンのシェルターで過ごす少女の暮らしについて知る。 ○　「自殺率の国際比較」の資料をもとに、アルゼンチンと日本を比べ、自分達の生活を見つめなおし、自分達が周囲に働きかけていけることを考える。
	活動テーマ：世界⇔自分　遊びで学ぼう、周囲との関わり方
3	学年集会で、クラス・学年の友達と、仲良くなれる遊びに取り組む。
4	授業参観で、地域の方や保護者と、仲良くなれる遊びに取り組む。
5～7	大阪中華学校との交流会で、中華学校の児童と、仲良くなれる遊びに取り組む
8～10	ファシリテーターによる「インプロ」のワークショップを実施し、互いの存在を認め合えるような遊びを体験する。
11～13	学習発表会で、全校児童対象に、自分達の取り組みを発表する。

3．実　践

（1）世界を通して自分を見つめよう！

世界の子ども達の生活を通して、自分を見つめてみよう。「世界⇔自分」の学習はまず、自分を見つめることから始まった。１時間目、ユニセフ監修のＤＶＤ教材「ようこそ、ボクらの学校へ」の中の「もうストリートにはもどらない」というアルゼンチンの少女のドキュメンタリーを見た。家庭内の暴力から逃げ出すために、ストリートチルドレンになった少女。14歳で出産し、母親になったこと

で、「自分の生きる意味」を見出し、貧しいけれどもあたたかなファミリーにかこまれて、生きていくという物語だ。子ども達は、「貧しさ」や、「教育を受ける権利が保障されていないこと」を、問題視しつつ、それでも、ほがらかにみんなで支えあって生きている姿に驚いていた。

続いて、あるグラフを提示する。日本が第10位に上がっていることから、「輸入量」「お金持ちの人口」などの予想が出された。

実は、これは「自殺率の国際比較」のグラフ。大人だけでなく、若い世代の自殺も多い日本。いじめやストレスなどで、多くの人が命を絶っているのが、日本の現実である。

「日本って本当に幸せなん？」子ども達からそんな声が上がる。アルゼンチンの子ども達に比べて、物質的には恵まれているはずなのに、心は満たされていない自分達。その思いを出し合った。

・なぜ、自殺が多くなってしまうのだろう？

・いじめがある（死んだら楽）・ケンカが多い・生きる希望がない・仕事が上手くいかない・「死ね」と言われる・仲いい人とケンカして、それが続くと、死にたくなる・存在価値がないと思っている

・こうした日本の状況に対して、自分達が、まずできることは、どんなことだろう？

・いじめをしない・1人になっている人に声をかける・できるだけ仲良くする・友達の悩みの相談にのる・暴力をなくす・好きなことをして友達と仲良く・親友を探す・友達を大切にする・みんなと仲良くする・一人ぼっちを作らない・人を大切にする・友達を助ける・「いやなことはいや」って言って、人がいやがることは自分もしないようにする。

自分達が踏み出すべき一歩。それは、周囲の人々と、よりよい関係を築き、お互いを大切にすることなのだ。世界を通して、自分達の進むべき道が見えてきた！

（2）自分達で取り組もう！「活動テーマ：世界⇔自分～遊びで学ぼう、周囲との関わり方～」

世界の幸せのために、まず自分ができることは、自分の周囲の人々を大切にすること、すなわち、仲良くしたり、互いを認め合ったりすること。そんな思いを胸に、自分達にできることとして、仲良くなれるような遊びを体験したり、紹介したりすることに決め、次の４つの活動を行った。

①　家族や、地域の方に、仲良くなれる遊びを紹介しよう！

プロジェクト・アドベンチャーや、インプロのゲームである「フラフープまわし」「ボールまわし」「言葉まわし」「並びかえゲーム」の４つを、授業参観にて、子ども達の進行で行った。

②　大阪中華学校との交流会で、仲良くなれる遊びを通して、交流しよう！

本校で、毎年行われている大阪中華学校との文化交流。

今回は、発表形式ではなく、ワークショップ形式で、関係を築けるような時間を目指した。実行委員中心に、相手の名前を呼び合うゲームや、言葉を使わずに、与えられた条件にしたがって並びかえるゲームなど、協力と認め合いが求められるゲームを実施した。

短時間であったが、初対面とは思えないほどうちとける子ども達の姿があった。

【並びかえゲーム】グループの中で、お題にそって、一列に並び替えるゲーム。「身長何cm？」など、自然と、会話が生まれます。

③　やってみよう、インプロ！～お互いの存在を認め合い、楽しく遊ぶヒントを探せ！～

インプロのファシリテーターに来ていただき、６年生全員で色んなゲームを楽しんだ。

「インプロ」とは英語の「インプロヴィゼーション」＝「即興」の略で、元々は俳優のトレーニングとして1970年代に開発された即興劇のプログラムです。ゲームでは、相手が即興で言ったことや、相手の出したアイデア・動きを受け入れて、そこに自分のアイデアをちょっと乗せて、広げていくものが多く含まれます。そこには、「失敗」や「間違い」は存在せず、どんなアイデアにも同等の価値があります。　自己表現や、他者とのコミュニケーションを、心地よい空間の中で楽しめる、それがインプロのゲームの魅力です。

【ナイフとフォーク】言葉を使わずに、互いの動きを見ながら、2つの物のうちの一方を表現するゲーム。

～「インプロ」を体験した子ども達の感想～

言葉を交わすゲームのとき、「あぁ、嫌やな！」って思ったけど、やっているうちに、笑っていた。特に、「ありがとう」って言葉をもっと教室やプライベートで、使えるなって思った。	遊びでは、1人の人を作らないってことが大切だと思います。一番大切な友達とずーっと一緒にいるんじゃなくて、たまには違う人とも一緒にいることも大切だと思う。今日は、いろんな活動をして、友達の意外なことがわかってよかった。またこんな活動をしたい！	最後にやった、クラス全員で「花丸」を作る遊びは、協力しいひんかったらできひんから、またクラスでやりたい。

④　「世界⇔自分」の学習で学んだことを、全校のみんなに紹介しよう！

【フラフープまわし】全校発表　下級生に仲良くなれる遊びを紹介。

これまでの活動のまとめとして、自分達が学んだことを、全校児童の前に発表した。

世界との比較から学んだことや、自分達ができることとして、お互いを大切にしあえるような遊びを体験してきたこと。それを、観ている児童もひきこむ形で発表した。下級生の児童が喜んでくれる姿を目にした子ども達は、とてもうれしそうであった。

４．成果と課題

ユニセフ教材を通して世界の子ども達について知ることは、子ども達が「自分」や「自分の住む社会」について、見つめ直す上で、多くのヒントを与えてくれた。また、困難な状況におかれた子ども達のために活動している人々の存在は、平穏な暮らしをしている子ども達にとっては衝撃的であり、自分達の暮らしを振り返らせるきっかけとなった。　実際の活動では、「幸せな社会の実現に向けて、まず周囲の人々に働きかけよう」と、「仲良くなれる遊び」に取り組んだ。「仲良くなれる遊び」とは、「互いの存在を認め合う遊び」であり、その成功のためには協力や思いやりが必要である。子ども達は、皆で遊びを楽しむためにはどうすればよいかを考える中で、そのことを体で学び、気付いていった。今後、子ども達の世界に、「インプロ」や、「プロジェクト・アドベンチャー」等のように、よりよい人間関係を構築できるような遊びが広がるよう、全校で、活動に取り組めるような体制を整えたり、地域の人々との交流に使ったりしていきたい。そして、心のつながりのある学校・地域の中で、安心して育った子ども達が、一歩一歩、心のつながりのある社会・世界の実現に向けて、力を発揮してくれることを願う。